

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目 次

■活動報告

●理事会報告

2021年3月26日(金):WEB会議システムを用いて第66回理事会を開催。2021年度の事業計画・収支予算、競技会の日程などの議題について協議しました。

- 第7期(2020-2021)ダイヤモンドアスリート第3回リーダーシッププログラム報告(ダイヤモンドアスリートコーディネーター田原陽介 青山学院大学)
「ダイヤモンドアスリート」制度では、選出された競技者に様々なプログラムを提供し中長期的なエリートの育成を目指しています。「国際的なリーダーシップを発揮できるアスリートの育成」を目指す、リーダーシッププログラムの第3回の様子を報告いたします。

■大会観戦ガイド

「第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技、第37回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技」

「第105回日本陸上競技選手権大会/第37回U20日本陸上競技選手権大会」

■事務局からのお知らせ

第105回日本陸上競技選手権大会 第2弾キービジュアル公開!

キャッチコピーは「誇りをまとうために。」

東京への切符を握み、誇りをまとう選手たちに是非ご注目ください。

information

- ・日本陸連登録料の設定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/fee/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2021年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/14004/>



- ・シューズ規則/広告規定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・【東京オリンピック】
エントリースタンダード

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/12453/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



理事会報告

第66回理事会

日時：2021年3月26日（金）

14時03分～16時51分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

日本陸上競技連盟会議室

開催方法：WEB会議システムを用いて開催

【議事内容】

理事総数28名中出席者27名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1. 第11期事業計画・収支予算

尾縣専務理事より事業計画が、小手川財務委員長より収支予算が、資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

【第11期事業計画】

第11期事業計画における重点事項は下記の通り。

(1) 東京2020オリンピックの開催

❖いよいよ東京2020オリンピックを迎える年となり、ここに至るまでの強化策の集大成とする。種目ごとの目標達成を図り、東京2020の成功を導く。

【東京2020オリンピックに向けた方針】

- ・メダル、入賞を一つでも多く
- ・舞台に立つアスリートを一人でも多く
- ❖オリンピックテストイベントとして「北海道・札幌マラソンフェスティバル」及び「READY STEADY TOKYO - 陸上競技」を開催し、競技運営及び大会運営の能力を高め、万全の体制で迎える。
- ❖東京2020オリンピックの開催を、陸上競技の価値を向上させる機会として捉え、様々な分野において、最大限に戦略的、効果的に活かす。

(2) 指導者養成指針に基づいた指導者養成及び指導者資格制度の整備

2020年度に発表した「指導者養成指針」に従い、「全ての指導者にコーチ資格取得を」の実現に向けて指導者養成制度を整備し、指導者の養成に取り組む。

(3) アスレティックファミリーの拡大

「JAAF VISION 2017」に掲げるアスレティックファミリー拡大の目標達成に向け、会員制度の充実を図る。大会エントリー、記録管理システム等の2023年度からの運用を目指して、サービス基盤のシステム構築に着手する。また、ウェルネス陸上の実現に向けて、JAAF RunLinkの理念の根幹である、すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境づくりにおいても、競技団体としての責務を果たす。

(4) 国際力の底上げ

日本へのワールドアスレティックスやアジア陸上競技連盟からの期待値は常に高く、更に積極的な貢献が不可欠である。世界の流れ、進化、変革に遅れを取らないよう、あらゆるネットワークを駆使して、現場に共有し、日本陸上界全体の国際力の底上げに繋げる。

(5) ガバナンスの強化

適正な組織運営の確保について、組織の多様性に配慮するとともに、そのバランスや円滑な業務の継承についても配慮したガバナンス強化に努める。また、国民・社会に対しても適切な説明責任を果たしていくことが求められるNFとして、確固たる経営基盤を確立し、健全な組織運営を自ら行動で示す。

(6) ポスト東京2020を見据えて

ポスト東京2020を見据えて、東京2020へ向けて推進してきたことをオリンピックのレガシー、陸上競技の財産として残し、守り、継承していくことを念頭におき、各種事業に取り組む。

【第11期収支予算】

經常収益17億3,722万円、經常費用17億3,722万円、当期經常増減額は±0円となる。

(1) 經常収益

- ①基本財産運用収益は626万円。基本財産12億円に対する利息収入。
- ②登録料受入収益は2億2,900万円。登録会員からの登録料収入は、一般と大学生が各1,000円、高校と中学生が各500円。
- ③加盟金受入収益は470万円。1加盟団体から10万円の加盟金を納めて頂いている。
- ④受取寄付金はなし。
- ⑤受取委託金・助成金は、2億4,697万円。日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターからの委託金・補助金・助成金収入。
- ⑥事業収益は12億1,094万円。オフィシャルスポンサー料と競技会での協賛金、参加料、入場料収益、放送権料等が主な収入。
- ⑦その他事業収益は2,435万円。器具検定料、競技場公認料、後援名義使用料等の収入。

(2) 經常費用

- ①事業費は16億46万円。競技会予算、委員会予算、マーケティング予算、広報予算、加盟団体等への地域活性化助成金、各種イベント等に関する費用。
- ②管理費の事務局運営費等は1億3,676万円。

2. 2021年度主要競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、2021年度主要競技会日程が承認された。（承認された競技会日程は、本連盟WEBサイト <https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202011/2021calendar.pdf> 参照）

3. 2020年度栄章

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案通り承認された。

功労章3名、秩父宮章35名、高校優秀指導者章47名、中学優秀指導者章47名、高校優秀選手章47名、中学優秀選手章47名、日本記録章延べ29名、室内日本記録章延べ8名、U20日本記録章延べ8名、U20室内日本記録章延べ3名、U18日本記録章延べ6名。

4. 東京2020オリンピック競技大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改正

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、東京2020オリンピック競技大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考要項の改正が原案通り承認された。(承認された選考要項は、本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/201907/01_171958.pdf 参照)

5. 第77回(2022年度/栃木)、特別(2023年度/鹿児島)、第78回(2024年度/佐賀)国民体育大会実施種目

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、下記、第77回(2022年度/栃木)、特別(2023年度/鹿児島)、第78回(2024年度/佐賀)国民体育大会実施種目が原案通り承認された。

- 成年男子(11種目):100m、300m、800m、110mH、400mH、3000mSC、10000m競歩、走幅跳、三段跳、砲丸投、やり投
- 少年男子A(8種目):100m、300m、5000m、300mH、棒高跳、走幅跳、ハンマー投、やり投
- 少年男子B(5種目):100m、3000m、110mH、走幅跳、円盤投
- 少年男子共通(3種目):800m、5000m競歩、走高跳
- 成年少年男子共通(1種目):4×100mリレー
- 成年女子(12種目):100m、300m、800m、5000m、400mH、5000m競歩、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投、ハンマー投、やり投
- 少年女子A(8種目):100m、300m、800m、3000m、100mH、300mH、砲丸投、やり投
- 少年女子B(3種目):100m、100mH、円盤投
- 少年女子共通(3種目):走高跳、走幅跳、三段跳
- 成年少年女子共通(1種目):4×100mリレー
- 成年少年男女混合(1種目):4×400mリレー
- ※成年男子三段跳は、少年男子Aからもエントリーできる。成年女子5000m競歩及び成年女子棒高跳は、少年女子Aからもエントリーできる。
- ※特別国民体育大会が、第77回と第78回の間での実施となったが、3年間同種目で実施する。

6. 2021年度第1期強化競技者規程

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、2021年度資格を付与された日の翌日から2021年8月31日までを指定期間とする2021年度第1期強化競技者規程が原案通り承認された。

7. 定款細則の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、2023年度改選から適用する理事及び評議員の構成についての別表に関わる定款細則の改正が原案通り承認された。

(承認された改正箇所)

学識経験	理事	
	14名	内女性理事の最低人数
北海道	2名	1名
東北		
関東	3名	1名
東京		
北陸	3名	1名
東海		
近畿	2名	1名
中国	2名	1名
四国		
九州	2名	1名
協力団体 (実業団・学連)	2名	1名

8. 次期役員候補者選定委員会規則の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、審議事項、委員の任期及び規則の適用期間に関わる次期役員候補者選定委員会規則の改正が原案通り承認された。

9. 経理規程の改正

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、固定資産の範囲に関わる経理規程の改正が原案通り承認された。

10. 「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程」及び「競技用器具検定規程」の改正

高木施設用器具委員長より資料に基づき説明があり、公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程第12条公認料、競技用器具検定規程第6条検定料の金額を消費税込みとする改正が原案通り承認された。

11. 特別寄付金の受領

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、特別寄付金の受領が原案通り承認された。

12. 特別委員会委員の変更

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、倫理委員会委員、栄章審査委員会委員、後援競技会認定委員会委員の2021年4月1日付での風間明事務局長から鈴木英穂新事務局長への変更が原案通り承認された。

13. 評議員会の開催

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、2021年6月18日(金)を期日とする定時評議員会の開催が原案通り承認された。

〈報告事項〉

- サトウ食品日本グランプリシリーズ
2021年日本グランプリシリーズ要項
- 2021年度強化競技者
- 2021年度競技規則の修改正
- JTOs規程、JTOs施行細則及び
JRWJs規程、JRWJs施行細則の改正
- 2021年度S級公認審判員昇格者
- 代表理事、業務執行理事の職務執行状況

第7期(2020-2021)ダイヤモンドアスリート 第3回リーダーシッププログラム報告

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介(青山学院大学)

2020東京オリンピックと、その後の国際大会での活躍が大いに期待できる次世代の競技者を強化育成する「ダイヤモンドアスリート」制度では、選出された競技者に様々なプログラムを提供し中長期的なエリートの育成を目指している。本稿では、「国際的なリーダーシップを発揮できるアスリートの育成」を目指す、リーダーシッププログラムの第3回目(3月25日)の様子を報告する。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、プログラムはオンラインで実施された。

1. 第一部 上原健太郎氏(大阪国際大学)による講義

上原氏より「貧困層や社会的弱者の立場から見るスポーツ」というテーマで講義が行われた。上原氏は、世界的なスポーツイベントが開催されることによって「生活環境の変化」を強いられる人たちが存在するとして、いくつかの事例を挙げた。例えば、世界的なスポーツイベントの開催が決まると、競技場の周辺の再開発や整備が行われ、社会的弱者と呼ばれる人々、あるいは貧困層・低所得者層の一部が、住む場所を追われたり、従来の生活コミュニティを失うケースがある。

上原氏は、「スポーツも大好きで、ぜひオリンピックは開催して欲しい」と前置きしたうえで、「そこで生活していた人たちがどうなっているのか」気にかかっているとコメントした。つまり、世界的なスポーツイベントが開催されることに関して、メリットもデメリットもあるという指摘だが、両方の側面があることを知り、受け止めた上で発言や行動、考え方をを行う必要性が示された。

その後行われたディスカッションでは、アスリート達から「今まで考えたことがなかったような問題だった」と感想がでたが、上原氏から「不利益を被る人たちがでないためには何ができて、互いの支え合える関係性をどう作るか」といった大切な問いが提起されて第一部が締めくくられた。

2. 第二部 松島雅美氏(臨床心理士)による講義

国際メンタルビジョントレーニング協会の代表理事を務める臨床心理士の松島氏から、「メンタルビジョントレーニング」の概念を、実技を交えながら紹介された。

メンタルビジョントレーニングとは、メンタルとは「心の持ちよう」ではなく、「機能」として鍛えられる方法として、アメリカで多くの実績を残しているビジョントレーニングに、心理学の知見を加え、目の機能とメンタルの機能を向上させるトレーニングとして知られている。

松島氏から、眼の動体視力、眼球運動、深視力といった働きが競技力向上に密接につながっていることが説明され、眼の使い方やクセや偏りが、身体のバランスに大きく影響するとした。続いて、メンタルに大きな影響を及ぼす前頭前野の活性化につながる「眼球運動」の大切さに触れ、この眼球運動のバランスを整えるために効果的な3種類のトレーニング(追従性眼球運動、跳躍性眼球運動)を紹介し、実際にアスリートたちに体験させた。

講義中に紹介されたトレーニングはどれも、比較的簡易であったが、アスリートたちはスムーズにクリアする事がなかなかできない場面もあった。松島氏からは、毎日続けることによって変化を感じられ、自身の競技に繋がってくる事が紹介された。



大会観戦ガイド

第105回日本陸上競技選手権大会・混成競技 第37回U20日本陸上競技選手権大会・混成競技

- ▼期日：2021年6月12日（土）・13日（日）
- ▼会場：長野市営陸上競技場 長野市東和田 632
- ▼アクセス：しなの鉄道 北長野駅下車 徒歩 約20分
長野電鉄 朝陽駅下車 徒歩 約15分
長野電鉄バス 運動公園線 運動公園下車
上信越道 須坂長野東インターチェンジより 約20分
- ▼競技種目：
【日本選手権】男子十種競技／女子七種競技
【U20日本選手権】男子十種競技／女子七種競技
- ▼問合せ先：
【エントリー操作・決済に関する問い合わせ窓口】
日本陸連会員登録サポートセンター
TEL：03-6434-1216（平日10：00～17：00）
問合せフォーム <https://start.jaaf.or.jp/support>
【競技運営本部（欠場届等 競技運営に関する問い合わせ窓口）】
〒381-0038 長野県長野市東和田 632 長野市営陸上競技場（一財）長野陸上競技協会 担当：葛城
TEL：090-1867-7044 FAX：020-4664-1771
E-mail：info07@nagano-rk.com
【日本陸上競技連盟・事務局】
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 9階
TEL：050-1746-8410（土・日・祝日を除く10：00～18：00）
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1555/>



写真：フォート・キシモト

第105回日本陸上競技選手権大会 第37回U20日本陸上競技選手権大会

- ▼期日：2021年6月24日（木）～6月27日（日）
- ▼会場：大阪市・ヤンマースタジアム長居 大阪府大阪市東住吉区長居公園1-1
- ▼アクセス：

地下鉄御堂筋線「長居」下車。1番出口より500m（徒歩6分）

JR阪和線「鶴ヶ丘」下車。東出口より550m（徒歩6分）

JR阪和線「長居」下車。東出口より650m（徒歩7分）

大阪北部方面から 阪神高速14号松原線 駒川出口
南港通を西へ、西田辺交差点を南（あびこ筋）へ、長居公園西口交差点を左折

大阪南部方面から 阪神高速14号松原線 文の里出口
あびこ筋を南へ、長居公園西口交差点を左折

- ▼競技種目：【日本選手権 男子（17種目）】
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、
110mH、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、
走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
- 【日本選手権女子（17種目）】
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、
100mH、400mH、3000mSC、走高跳、棒高跳、
走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投
- 【U20日本選手権 男子（18種目）】
100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、
5000m、110mH（99.1cm）、400mH、3000mSC、
走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投（6.000kg）、
円盤投（1.750kg）、ハンマー投（6.000kg）、やり投（800g）
- 【U20日本選手権女子（18種目）】
100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、
5000m、100mH（83.8cm）、400mH、3000mSC、
走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投（4.000kg）、
円盤投（1.000kg）、ハンマー投（4.000kg）、やり投（600g）
- ▼問合せ先：【公益財団法人日本陸上競技連盟事務局】
〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 9階
TEL：050-1746-8410 FAX：050-3588-1869
（土・日・祝日を除く10：00～18：00）
【競技運営本部（欠場届等競技運営に関する問い合わせ窓口）】
大阪陸上競技協会 TEL：06-6697-8899 FAX：06-6697-8766
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1556/>



写真：フォート・キシモト

事務局からのお知らせ

◆◆◆第105回日本陸上競技選手権大会 第2弾キービジュアル公開◆◆◆

今大会は、東京2020オリンピック競技大会の日本代表選手選考競技会となっており、半世紀ぶりに「東京」の舞台をかけた戦いの最終章が始まります。

キャッチコピーは「誇りをまとうために。」

先に公開した第1弾キービジュアルでは、1964年東京五輪マラソン日本代表の君原健二さんが実際に本番で着用したユニフォームを使用し、変わらずに受け継がれる誇りやいつの時代も変わらない自国で開催される「五輪」への希望と想いを表現いたしました。

そして第2弾となる今回は、1964年から2021年へつなげるバトンを新たな「日本代表ユニフォーム」を用いて表し、1964年日本代表選手から受け継がれる日本代表としての誇りや想いを2種類のキービジュアルを通して表現しております。

東京への切符を掴み、誇りをまとう選手たちには是非ご注目ください。

今大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮しながら開催し、日本の陸上史に残る、そして出場する全ての選手・チーム・陸上ファン・支える方々の心に刻まれる競技会を目指します。

6月日本代表が決まる。

日本の陸上史に数々のドラマと感動を刻んできた日本選手権。

2021年、半世紀ぶりに東京の舞台をかけて競う。

切符を掴み取った者だけが、刻み続く誇りをまとうことが許される。

ナンバーワンしかいらぬ。
その栄冠は更なる戦いへの始まり。

〈開催概要〉

開催日程：2021年6月24日（木）～27日（日）

開催会場：ヤンマースタジアム長居（大阪）

公式サイト：<https://www.jaaf.or.jp/jch/105/>

ハッシュタグ：#日本選手権 #東京への最終章 #誇りをまとうために

6月、日本代表が決まる。
日本の陸上史に数々のドラマと感動を刻んできた日本選手権。2021年、半世紀ぶりに東京の舞台をかけて競う。
切符を掴み取った者だけが、刻み続く誇りをまとうことが許される。
ナンバーワンしかいらぬ。その栄冠は更なる戦いへの始まり。

東京への最終章

第105回
日本陸上競技選手権大会
JAAF Athletics Championships
OSAKA 2021

会場 ヤンマースタジアム長居（大阪）
2021
6.24 - **27**
105回日本陸上

山崎製パンは第105回日本陸上競技選手権大会を応援しています。

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
麻場 一徳（陸連強化委員長）
鈴木 英穂（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

石井 朗生
◇時報編集担当
石田 夢

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869